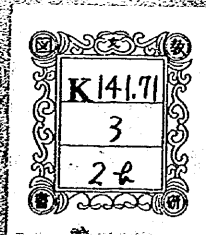


K141.71

3

2b





高等小學新定畫帖

第二學年教師用

文部省

45. 2. 9

內文

凡 例

一本書は尋常小學新定畫帖に連絡して高等小學校圖畫科の教科書に充つるため編輯したるものにして、各學年とも教師用書と兒童用書との二種とす。

二本書教師用書は一學年間の教授週數を四十週とし、毎週教授時間を一時間として之に相當する分量の教材を選択し、總べて之を説明したり。

兒童用書には教師用書に説明したる材料の中につきて臨畫せしむるものと及び寫生並びに考案畫の參考資料として必要な材料を選出して之を掲げたり。

三本書は尋常小學新定畫帖と同様に鉛筆畫毛筆畫てふ用具上よりの區別を廢し鉛筆と毛筆との何れをも使用せしむることとしたり。

四自在畫の教授を完全にせんには、時、時、尺度、三角、定規、コンパス等を用ひて正確なる形態を畫かしむることも亦必要なるを認め、左表の如き配當によりて是等の器具の使用にも慣れしめんことを期したり。

用器畫と自在畫との教授時間の割合は凡そ左表の如し。

五、圖畫の種類を臨畫寫生記憶畫考案畫の四種とし、其の教授時間は凡そ左表の如き割合によりて各學年の教授題目を選擇したり。

六.本書に選擇したる寫生材料は各地方にて成るべく得易きものを標準として選擇したり。然れども土地によりては尙得難きものもあるべければ便宜之を變更するも可なり。

七季節と關係ある教材は十分注意して之を排列したれど地方によりては尙變
更すべき必要あるべければ適切の時期に於て便宜之を教授すべし。

八本書は技術の練習に注意したるが故に植物類昆蟲類等の如き種類により同

一種類のものを或時期間連續して練習せしむることとしたり。

九。本書の教師用書にありては、教授上の便を計りて、各課とも要旨準備教授の三項目に分ちて記述し、教授の一項目は更に觀察説明問答畫方注意等の小項目を掲げ、觀察説明問答等の要點並びに畫方の方法を述べ、又描寫の際兒童が陥り易き弊並びに將來心得置くべき必要條件等を記したり、各項目とも記述事項を一括して記したるが故に、教授者は之を分解して便宜の教授案となすべし。

一〇。本書には畫用紙の廣さを定めず、然れば教授時間の長短用具の大小圖畫の粗密等によりて便宜之を定むべし。

一一。本書の兒童用書には毛筆若しくは鉛筆のみにて畫きたる畫を掲げたれども、便宜木炭其の他の材料を使用せしむるも可なり。

目録

第一學期

第一課	花(寫生).....	一
第二課	花(寫生).....	二
第三課	模様(考案畫)(兒童用第一圖).....	四
第四課	器物工作圖(寫生).....	七
第五課	犬又は馬(臨畫)(兒童用第二圖、第三圖).....	一一
第六課	獸類(寫生)(兒童用第四圖).....	一四
第七課	果實(寫生)(兒童用第五圖).....	一七

第二學期

第八課	川の景色又は海の景色(臨畫)(兒童用第六圖、第七圖).....	二一
第九課	花(寫生)(兒童用第八圖).....	二六

第十課	鳥(寫生)(兒童用第九圖).....	二八
第十一課	置物臺工作圖(寫生).....	三一
第十二課	模様(考案畫)(兒童用第十圖).....	三三
第十三課	模様(考案畫)(兒童用第十一圖).....	三六
第三學期		
第十四課	冬枯の景色又は夜景(臨畫)(兒童用第十二圖).....	四一
第十五課	人物(臨畫と説明)(兒童用第十四圖).....	四七
第十六課	器物(考案畫).....	五一
第十七課	棚の工作圖(寫生).....	五三
課外	田舎家の工作圖.....	五六

高等小學新定畫帖 第二學年教師用

第一學期

第一課 花

寫生 二時間

要旨

鉛筆又は毛筆にて花の畫方を練習す。

準備 餘り大ならざる花(兒童各自に與ふ)

教授

一.位置の取方

兒童各自に分與したる花につきて其の最も美なる方面を
選ばしめ、寫生すべき位置方向を定めしむべし。

二. 觀察と畫方

花・葉・莖の形狀色彩を觀察せしめ、各花・各葉の色の明暗陰影等によりて墨色に濃淡をつくることを知らしめ、是まで畫きたる順序方法によりて輪廓を畫き彩色を施さしむべし。

三. 注意

植物を二週間に亘りて寫生せしむることは困難なるべければ、初の時間に輪廓と濃淡とを正確に寫し、次の時間には初に寫生したる花と同種類の花を參考して彩色せしむるも可なり。

簡單なる教材を取り、一時間に一教材を仕上げて、二教材を畫かしむるも可なり。

第二課 花

寫生 二時間

要旨

毛筆にて花の畫方を練習す。

準備 成るべく大なる花(團體に一箇づつを與ふ)

教授

一. 位置の取方

花の表裏を觀察せしめて其の最も美なる方面を選ばしめ、且其の選擇の適否を兒童相互の間に批評せしむべし。

二. 觀察と畫方

前課と同様に、花・葉・莖の形狀色彩並びに、各花・各葉の明暗陰影を觀察せしめ、任意に寫生せしむべし。

三. 注意

前課と同様に、本課も亦二教材を選び、一時間に一教材を仕上げしむるも可なり。
是までは正確に畫かしめんために、必ず下畫したる後輪廓を畫き彩色を施す順序を採りたれども、十分觀察して形狀・色彩・明暗・陰影を看取したる後、毛筆にて直ちに畫かしむる練習を課するも可なり。

第三課 模様 (兒童用第一圖)

考案畫 三時間

要旨

前課にて寫生したる花を應用して模様を考案せしむ。

準備 模様の形狀・彩色等の參考圖。

教授

一。問答

尋常科及び高等科第一學年にて教授したる模様の組立方、並びに配色法、模様・彩色の順序等につきて問答すべし。

二。觀察と説明

兒童用書第一圖を觀察せしめ、該模様は蕨・蝶・槭と渦卷の水笹と雪輪・花菱・松・麥・梅・櫻等を用ひて考案したることを知らしめ、蕨・笹と雪輪・花菱・松・麥・梅の模様は無地に模様を畫き、蝶及び櫻は縦縞地、槭は渦卷の水地に模様を配合したることを知らしむべし。

次に、彩色を觀察せしめて、蕨・梅の模様の地色と花菱の周圍の色とは、赭色に稍黄色を加へたるもの、蝶模様の縞地、槭・

笹・松・櫻花の栗色の輪廓線、櫻模様の縞地は岱赭色に赤色と青色との少量を加へたるもの、渦卷の水の地色と松・梅花・蝶の一部分とは淡青色、笹と雪輪模様の地色は黄勝の緑色に少量の岱赭色を加へたるもの、花菱・麥の模様の地色と蕨・雪輪・梅の枝とは緑色に少量の岱赭色を加へたるもの、蕨・笹の周圍、麥の莖及び實、梅花は黄色に少量の赤色の加りたるものの淡色、蝶の體と松の黄色のものとは黄土と稱する黄色に少量の岱赭色を加へたるもの、赤色の蝶と槭とは朱・槭・松・櫻模様の一部分は岱赭色に少量の青色を混じたるもの、青色の槭と蝶とは青色に少量の白を加へたるもの、赤色の蝶の翅の中央及び縦縞の黒赤きものは赤色に少量の墨を混じたるもの、笹と麥との輪廓及び花菱の中の暗緑色は緑色

に少量の墨を加へたるもの、緑色の松と櫻花の軸とは純粹の緑色、淡緑色の松は純緑色に少量の白を混じたるものにて表したることを知らしむべし。

三. 畫方

兒童用書第一圖を參考して任意の模様を考案せしめ、輪廓を畫きて丁寧な彩色せしむべし。

四. 注意

本課の彩色は成るべく白の繪具を使用して極彩色にて畫かしむべし。

第四課 器物工作圖

寫生 二時間

要旨

任意の器物の工作圖を畫かしめ、切斷面圖の畫方練習をなす。

準備 適宜の器物。

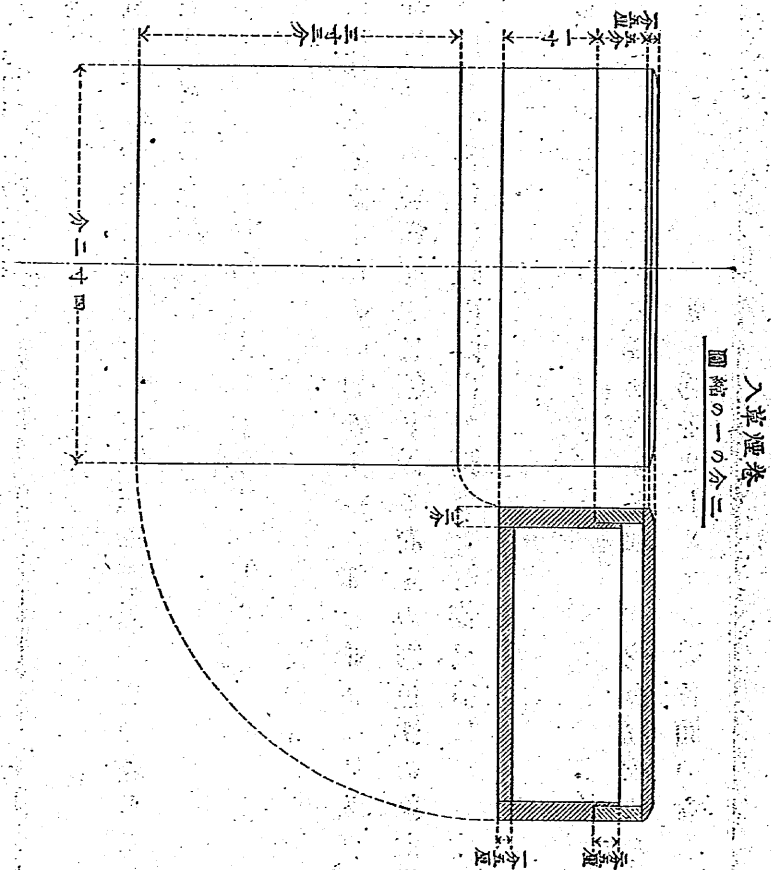
教授

一問答

切斷面圖を畫くために切斷すべき部分、並びに切斷線、切斷面の表し方、切斷面と切斷せざる面との彩色法の區別等、高等科第一學年教師用書にて説明したる事項につきて問答すべし。

二。觀察と畫方

準備したる實物を觀察せしめ、各部の形狀及び構造を知らしめ、且製圖すべき面を選定せしめて其の各面の看取圖を



畫かしめ、製圖上必要なる寸法を測り、看取圖に記入して縮圖すべき寸法に改算し、平面圖・正面圖・斷面圖を畫き、寸法を入れ彩色せしむべし。

本書に示せる卷煙草入の如き工作圖を畫くには、先づ中心線を畫きて其の上に正面圖に於ける各部の高さと平面圖に於ける幅とを定め、各點を通じて横に平行線を入れ、其の平行線の一つの線上に箱の長さを定め、此の點を通じ縦の平行線を畫きて正面圖と平面圖とを作り、次に箱の内部の構造を表すために、正面圖を中心線にて切斷したるものとして右側に畫きたる如き斷面圖を畫き、其の切斷面には四十五度の傾をなせる平行線を入れ、寸法を記入するものとす。

三.注意

寸法は實測したる實尺の數を記入するものとす。
便宜炭斗箱の如き四方轉びの器物を製圖せしむべし。

第五課 犬又は馬 (兒童用第二圖、第三圖)

臨畫 一時間

要旨

犬又は馬を畫かしめて獸類の各種の姿勢を知らしめ、且鉛筆にての畫方練習をなす。

教授

一.説明

兒童用書第二圖に示したる犬は、靜止と活動との姿勢を表

したるものなり。右下方の左向側面圖は鉛筆畫として完成し、其の他は單に姿勢のみを示すことを主として畫きたるなり。

第三圖に示したる中央の馬は其の骨格の割合を示すために側面を畫きたり。此の馬は左前足と右後足とにて體重を支へ、右前・左後の兩足は將に前方に運ばんとする所なり。此の圖は鉛筆畫として最も精密に仕上げたるものなり。周圍の三疋の馬は側面向後・向前向のものにつきて最も能く活動せる狀態を示したるものなり。其の下方に畫きたる曲線は砂煙の盛に立ちたる有様を表したるものなり。駈れる馬の姿勢を表すに前後の足を悉く外方に開きたる所を畫くこと多けれども、本圖は前後の足を悉く縮めたる

所を畫きたり。これ馬の駈る時は足を伸したる時間よりも屈したる時間長きが故に其の長き時間の姿勢を表したるなり。又馬の駈る時は常に尾を振りて體の釣合を取るものなれば、本圖は短く切りたる尾を振りて駈れる有様を表したり。

二。觀察と畫方

犬及び馬の圖を觀察せしむる時は、先づ如何なる場合の姿勢を表したるかを觀察せしめ、次に活動の狀態と目・耳・足・尾等の形狀との關係につきて觀察せしむべし。

各圖共、骨格は外部に現れざれども、之を仔細に觀察するときは、何れも體の輪廓によりて骨格の位置を略想像し得る如く畫きたれば體の輪廓と骨格との關係につき、注意して

觀察せしむべし。

犬又は馬の内何れにても兒童の好むものを選んで畫かしむべし描寫の順序方法は總べて兒童に工夫せしむべし。

三. 注意

犬及び馬の完成したる圖を畫く時は體の濃淡は鉛筆を平に塗りと畫かしむべし。線を表して畫きたるものは正しければ無害なれども萬一正しからざる時は有害なるを以て、寧ろ平に塗らしむるを可とす。

第六課 獸類 (兒童用第四圖)

寫生 三時間

要旨

毛筆にて獸類の畫方練習をなす。

準備 適宜の獸類の剝製標本。

教授

一. 説明

本課は前課の應用として獸類の剝製標本を毛筆にて寫生せしむ。

兒童用書第四圖に示したる兎は毛筆寫生の參考として示したるものなり。中央の兎は側面圖にして、右上方のものは頭を稍下方に垂れたる側面圖、左上方のものは右上方のものと同姿勢にして頭を少しく左方に曲げたる側面圖なり。右下方のものは後向となりて臥し、頭を少しく曲げて目を左方に注ぎたる姿勢を示し、左下方のものは全く右向をな

したる側面圖なり。

二。觀察と畫方

準備したる獸類の剥製標本を示して種種の方向に置き、各方面の形狀、骨格、色彩濃淡等を觀察せしめ、而して後描寫の順序方法を兒童各自に工夫せしめ、兒童用書の兎の圖を參考して毛筆にて輪廓を畫き、色彩せしむべし。

彩色を施すには、實物の毛色の濃淡によりて彩色に濃淡を附するのみならず、體の面の高さ部分を淡く、低く暗き部分を濃く彩色して圓みを表さしむべし。

三。注意

毛の長く深き所は線描して其の趣を表し、毛の短くして撫でたるが如く倒れたる所は兎の圖に示せるが如く、連續し

たる曲線にて表すことに注意せしむべし。
兎の後足の股の部の如く、坐りたるため毛の方向不規則となれる所は、特に注意して筆を使用せしむべし。

第七課

果實

(兒童用第五圖)

寫生 二時間

要旨

毛筆にて果實の畫方練習をなす。

準備 適宜の果實。

教授

一。説明

兒童用書第五圖に示したる枇杷の圖は、果實の色と其の線

描の濃淡、果實及び葉の面の高低と彩色の濃淡との關係を表す參考として、實物を平面上に置きたる有様を畫きたるものなり。

本圖は果實と葉の裏の葉脈とを淡墨にて畫き、葉の表の葉脈と莖とを濃墨にて畫き、果實の曲面、葉面の高低、色の濃淡等を表すために限取を施し、葉の表は葉の裏よりも濃く畫きたることを知らしむべし。

二、觀察と畫方

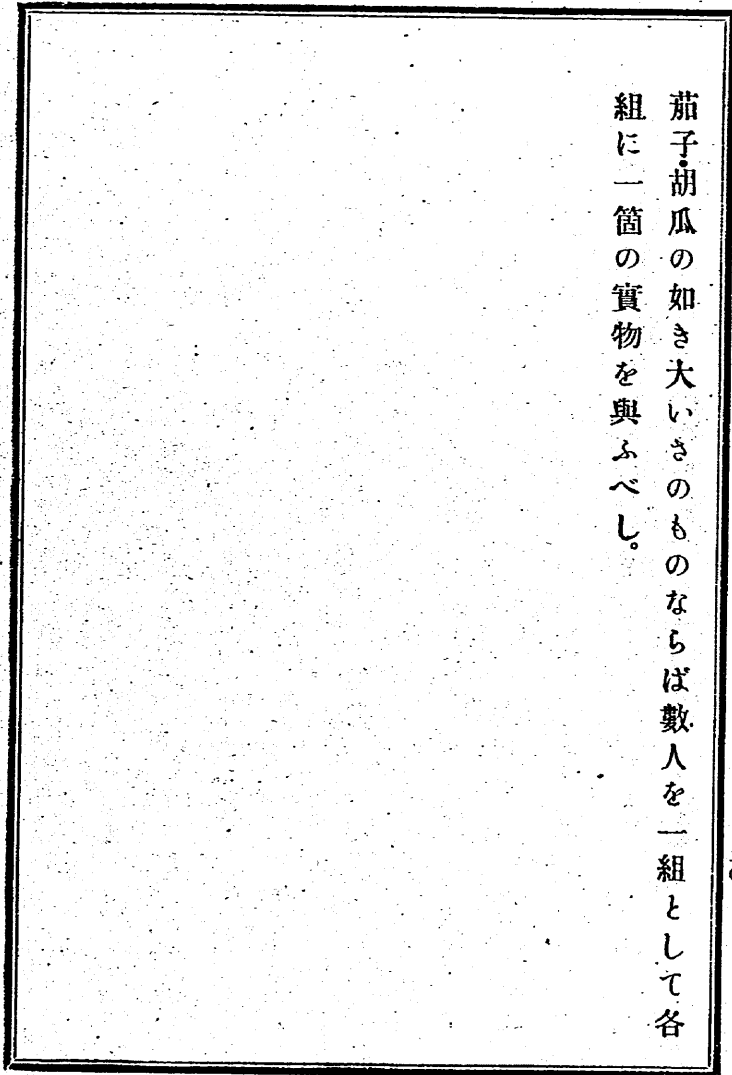
準備したる果實を適宜の位置に置かしめて其の位置の適否を批評し、後其の果實の形狀、色彩、陰影を觀察せしめ、且描寫の順序方法を工夫せしめて兒童用書の枇杷の圖を參考しつつ寫生せしむべし。

兒童用書の枇杷を畫くには、先づ三枚の葉の先端を結合して不等邊三角形を作り、莖の方向を定め、各葉の中肋を畫き、果實の位置を定め、葉の輪廓を取り、更に各部分の形狀を訂正し、次に果實、葉、莖の順序に毛筆にて線描して後、果實を淡黃色、葉を淡綠色、莖と種子とを淡赭色にて平に塗り、再び果實を橙色、葉を濃綠色、莖と種子とを赭墨にて限取して仕上ぐべし。

三、注意

果實の色合と輪廓の墨色の濃淡との關係、並びに線の太き部分と細き部分との畫方に注意せしむべし。總べて明色の物體の輪廓は淡墨、暗色の物體の輪廓は濃墨にて畫き、低き部分の線は太く、高き部分の線は細く表すものとす。

茄子胡瓜の如き大きいものならば數人を一組として各組に一箇の實物を與ふべし。



第二學期

第八課 川の景色又は海の景色

（兒童用第六圖第七圖）

臨畫 二時間

要旨

水彩にて簡單なる景色の畫方練習をなす。

教授

一。觀察と説明

兒童用書第六圖に示したる川の景色は、風なき小春日和の秋の趣を表さんがために、流緩にして鏡面の如く輝きたる水面に對岸の森など倒に映じ、渡船の靜に之を漕渡る有様を畫きたり。

左より出でたる中景の最も暗き森は杉にして其の他は雜木なり。右より出でたる中景の黄色を呈したる部分は草原と畑とにして立ちたる木は雜木なり。中景の左右にある汀の杙は土止の杙を表したるものなり。

中景の水に映じたる影を縦筋にて書き、水面の輝きたる有様を横筋にて書きたるは、水靜なる時の現象を示したるなり。水面に映じたる影は實物を遠ざかるに隨ひて先端次第に淡くなるものなれば、かしたるが如き趣に畫きたり。

遠景の水面に映じたる影を畫かざるは、遠くして明瞭に見えざる意味を表したるなり。

前景は水減じて川底露出し、潤ひたる砂の近邊に蘆の疎に生じたる趣を畫きたり。

空に風ある時は雲近き所に現るれども、天氣靜なる時は白雲遠く地平線に近く横たはる。本圖は白雲を地平線に近く畫きて、天氣の靜なることを示したり。

兒童用書第七圖海の景色は、天氣稍曇り風の爲に海上白波起り海岸に寄來る有様を畫きたり。

右海岸は赤岩の崩れたる上に、緑色の小松と黄色勝の草及び雜木とあり、光線の都合にて崩れたる岩は明るく見えたることを示し、崩れたる岩の下端稍暗色をなせるは、波のため浸されて苔の附きたる如く黒く變色したる有様を示したるものなり。總べて水邊の岸の下端は黒く變色せるを常とす。

海の色は天氣の都合により、遠景の方濃く見ゆる場合と淡

く見ゆる場合とあり。本圖は海上稍風あるがために、遠景よりも海面の方濃く見えたる所を畫きたり。

前景の砂の色は海岸の赤岩の崩れたるもの混じて稍褐色を呈したる色を畫きたるなり。砂原にある點は人の足跡を畫きたるものなり。之によりて砂原の遠近の意味一層能く表さる。かかる事は極めて簡單なる事柄なれども、寫景の際には注意すべきことなり。

二. 畫方

第六圖川の景色を畫くには、先を細く削りたる鉛筆にて軽く地平線を畫き、前景中景後景の面積の割合を定めて大體の形を畫き、彩色を施すべし。彩色をなすには、先づ淡青色にて空と水とを塗り、稍濃き青色にて遠景を畫き、淡橙色にて

左右の岸を畫き、淡岱赭色に少しく墨若しくは青色の加りたるものにて川底と左右の岸の一部分とを平に塗り、最後に左岸の森と水面に映じたる森の影並びに、船、蘆、杙等を彩色せしむべし。

第七圖海の景色も第六圖と同様に、細く削りたる鉛筆にて軽く地平線を畫き、砂原、右方の海岸、遠山の大體の輪廓を定め、次に彩色せしむべし。彩色を施すには、先づ淡青色に少しく赤色を加へたる青勝の紫色即ち鼠色にて空と遠山と海とを塗り、岱赭色に少しく黃色を混じたるものにて海岸と砂原とを彩色し、黃勝の綠色に少しく岱赭色を加へたるものにて右海岸の山を畫き、更に青色にて遠山と海とを彩色し、岱赭色に少しく青色を加へたるものにて砂原と海岸の

暗き部分とを彩色し、最後に人物及び砂原の足跡を畫かしむべし。

三。注意

第六圖と第七圖とは何れを畫かしむるも可なれば兒童各自の好むものを畫かしむべし。

第九課 花

(兒童用第八圖)

寫生 二時間

要旨

毛筆にて花の畫方練習をなす。

準備 桔梗・萩の如き適宜の花。

教授

一。説明

兒童用書第八圖に示したる花は、桔梗・刈萱・女郎花・葛・萩・撫子・藤袴の秋の七草なり。本圖を花の寫生の參考として示したる要點は、萩・撫子の如く色の濃きものは其の輪廓の線を濃墨にて畫き、桔梗・葛・刈萱の如き色のものは其の輪廓を中墨にて畫き、女郎花・藤袴の花の如く明色のものは線描を略して直ちに色にて畫き、各種の畫方を示したるにあり。

二。觀察と畫方

準備したる花の最も美なる方面を選ばしめ、各部の形狀色彩を觀察せしめ、更に描寫の順序方法を工夫せしめて後、任意に寫生せしむべし。

三。注意

花及び葉の色の濃淡・明暗によりて、輪廓を畫く墨色に濃淡をつくることに注意せしむべし。

第十課 鳥 (兒童用第九圖)

寫生 四時間

要旨

毛筆にて鳥類を正確に畫く練習をなす。

準備 鳥類の剝製標本。

教授

一。説明

兒童用書第九圖に示したる鴛鴦は鳥の寫生の參考として掲げたるものなり。

中央の鴛鴦は左向の側面圖を精密に仕上げたるものなり。周圍のものは後向のもの、後向にて少しく斜に向きたるものの、側面向にて頭を前方に向けたるもの等種種なる姿勢を表し、方向と體の變形との關係を示したり。

中央の鴛鴦は、各部分の羽毛の描法、嘴・目・脚の位置、彩色等の模範なれば、胸部の軟なる羽毛及び頸と後頭部との羽毛の描法、腹部の綿毛の略畫法、硬き羽の重りたる翼の描法、及び羽の根本を濃く羽の先端を淡く軽く畫きたること、其の他重要な點につき注意して説明すべし。

二。觀察と畫方

準備したる鳥を種種の方向に置きて、種種なる姿勢と其の形狀との關係を知らしめ、更に進んで標本を一定の向に置

きて、其の各部の形狀並びに羽毛の硬軟、羽の重り方、嘴、目、脚の位置形狀を知らしめ、描寫の順序方法を工夫せしめて任意に畫かしむべし。

兒童用書第九圖の中央の鴛鴦を畫くには、體と頭との輪廓を卵形に取り、脚の位置を定め、各部分の形を訂正し、彩色を施すべし。彩色を施すには、淡黃色に少しく、赭色を加へたる色にて體の全部を平に塗り、赭色に少しく青色を混じたるものにて頸、胸、銀杏羽の一部を彩色し、淡墨にて後頭部、翼、尾等の一部を塗り、更に頸、胸、翼、尾に隈取を施し、次第に細部分を仕上ぐるものとす。

三、注意

本課は正確に畫かしめんがために、教授時間を四時間と豫

定したれども、之を二時間宛に分ちて二教材を畫かしむるも可なり。

重りたる羽の隈取をなすには、上にある羽の先端を淡くぼかし、下にある羽は上の羽に接したる部分を濃くするものなることに注意せしむべし。

第十一課 置物臺工作圖

寫生 二時間

要旨

置物臺を畫かしめて、器物の側面の水平の稜と正面の水平の稜の延長とが四十五度の角をなす工作圖の畫方練習をなす。
準備 適宜の置物臺。

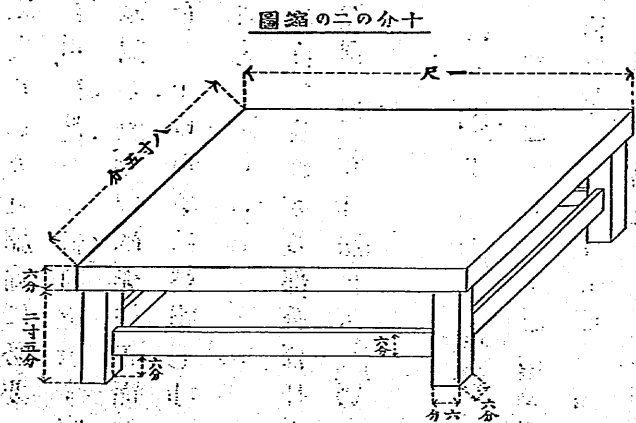
教授

一。問答

問答により、高等科第一學年教師用書中組手の工作圖につきて説明したる畫方を復習すべし。

二。觀察と畫方

上圖の如き程度の置物臺を示し、各部分の形狀及び構造につきて觀察せしめ、看取圖を畫きて製圖上必要なる各部の寸法を實測してこれに



記入せしめ、且縮圖に必要な寸法に改算し、而して後製圖し、寸法を入れ、材料を示す彩色を施さしむべし。
本圖を畫くには、先づ正面を畫き、右側面の奥行を定めて側面・上面の順序に製圖し寸法を記入するものとす。
三。注意

表面に現れざる部分は仕上の際省略して畫かしむべし。
縮圖に記す寸法は實尺の數を記入するものとす。

第十二課

模様

(兒童用第十圖)

考案畫 三時間

要旨

第九課にて寫生せし花を應用したる模様を考案せしむ。

教授

一、説明

尋常科第六學年に於て四方連續模様の排列の形式には方眼・菱眼等あることを説明したり。然るに四方連續模様の排列の形式は單にこれのみに止らず、尙許多ありて種種工夫し得べし。本課にては専ら兒童の工夫によりて任意の四方連續模様を畫かしむべし。

兒童用書第十圖に示したる右方のものは正六角形と正三角形との連續したる次圖甲の如き眼を基礎として撫子の花を排列し、而して後眼の基本の線の一部を残して撫子と組合せたる模様となしたるなり。

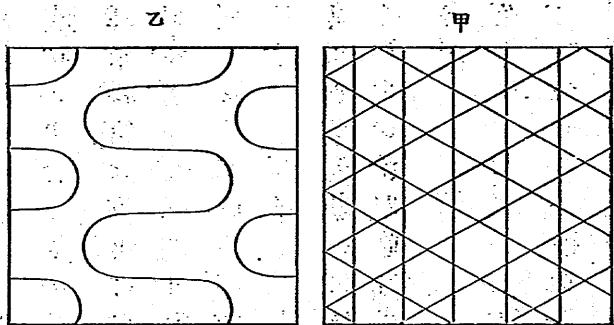
兒童用書中の左方のものは、次圖乙の如き波狀の線を基礎

として桔梗を排列したるなり。

二、畫方

兒童用書第十圖につきて其の構成法を説明し、四方連續模様にも種種の排列法あることを知らしめて後、四方連續模様の排列の形式を考案せしめ、寫生したる花若しくは秋の七草の參考圖中の花を用ひて任意に模様を作らしむべし。

兒童用書第十圖の模様を畫くには、基本の罫を引き、之を標準とし



て模様の位置と輪廓とを定め、右方の模様は、尙赭色に稍青色の加りたるものにて地色を平に塗り、其の乾燥したる後、赤色と緑色とに白の繪具を加へて撫子の花と葉とを畫き、白の繪具にて網目の線を入るべし。

左方の桔梗の模様は、淡紫色にて地色を平に塗り、其の乾燥したる後、黃色に少量の尙赭色を混じたる色に更に白を混じて淡色となし、これにて桔梗の莖と葉とを畫き、更に其の上に白の繪具にて花を平に畫くものとす。

三。注意

繪具に白のなき時は、模様と地色とを重ねること能はざれば、色を突合せにして彩色せしむべし。

第十三課 模様 (兒童用第十二圖)

考案畫 二時間

要旨

器物の表面模様を考案せしむ。

準備 茶碗、椀等成るべく多くの參考品。

教授

一。説明

尋常科に於て、既に器物の表面に模様を施すことを練習したれども、兒童用書第十一圖に示す如き方法によるものは説明のみに止め、且臨畫として之を課したるのみ、本課に於ては器物の全面に施すべき模様を考案せしめ、之を第十一圖に倣ひて展開せしむるものとす。

兒童用書第十一圖に示したる花瓶の模様は、金魚と金魚藻

とを以て模様を考案したるものなり。花瓶の輪廓より外方に出でたる金魚及び金魚藻の一部は花瓶の背面の模様を表したるものなり。

正六角形の印籠蓋の箱は水仙の模様にて表面を裝飾したるものなり。平面圖に於て葉の先端器物の輪廓よりも外に出でたるは箱の側面にある模様を展開したるによる。而して平面圖の左下方に展開したる葉の先端は正面圖の左側面にあるものなれば、此の部分正面圖に現るべきものなり。然るに本圖に之を略して畫かざるは、正面圖の左側面に現る葉は、其の幅縮少して實際の幅を示さざれば、模様の實形としては不完全なるが爲なり。又水仙の本の部分の正面圖の正面に畫きて平面圖の下方に展開せざるは、正面圖の

正面にある模様が實形を現すによる。尋常科第四學年に於て、工作圖の位置としては正面圖の下方に平面圖を畫くべきを説きたり。本課に於ては平面圖の下に正面圖を畫きたり。これは圖案に於て許容する一種の便法にして、本課の如く模様を考案することを主とする場合には、平面圖を正面圖の下方に置くよりも模様の接續可なるにより、此の方法によること多し。

二.畫方

第十課にて寫生したる鳥若しくは兒童用書第九圖の鴛鴦の有する曲線を應用して器物の輪廓を畫き、其の表面に七草の中二三種を用ひたる模様を考案せしめ、背面の模様を展開して模様の全形を示さしむべし。

三.注意

花瓶若しくは其の他の器物の形狀を畫くには、用器畫道具或は便宜の定規を使用せしむるも可なり。模様を用ふる材料は七草の外如何なるものを使用するも可なり。

器物より外部に展開する模様は背面の廣さを考へて過不足なき様考案することに注意せしむべし。

第三學期

第十四課 冬枯の景色又は夜景 (兒童用第十三圖)

臨畫 二時間

要旨

鉛筆又は水彩にて景色を畫く練習をなす。

教授

一.觀察と説明

兒童用書第十三圖に示したる冬枯の景色は、總べて落葉して幹枝を露出したる樹木の森陰に小川と小道とある田舎の趣を寫したるなり。此の圖の森の樹木は數千萬本の幹枝相重り相交又したる趣を僅少なる筆數にて表さんとして

畫きたり。故に一本の線は數十本の枝をも代表せることを知らしむべし。

家の左後方と小川の右方の木の間とを黒く塗りたるは、幾多の幹枝重りて遂に一本一本の區別明瞭ならず、只一面暗く見えたる趣を表したるなり。

數多の樹木相重れる時は、近き方の樹木の幹枝は明るくして遠き方の樹木は暗く現るるものなれば、近きものを明るく畫き、遠きものを暗く畫きたり。かくの如く畫くときは森の奥行深く表るるものなり。此の手段は二三本の樹木重りたる場合に於ても、注意せざるべからざることとなり、家と道との中間にあるものは柴垣を畫きたるなり。

本圖にて小なる人物を所所に畫きたるは、第六圖川の景色

夜二

に於ける渡船及び海の景色に於ける人物と同様に景色の趣味を加へたるなり。野外の寫景をなす際は此等の事に注意すること肝要なり。

兒童用書第十三圖に示したる夜の景色は、太陽没して宇宙に於ける總べての物體皆色を失ひ、一種異なりたる趣に見ゆる有様を畫きたるなり。

本圖は流緩なる川の中流に漕出したる渡船を照す月影は水に映じて輝き、對岸の茶屋の燈火並びに焚火は岸家と共に鏡の面の如き靜なる水面に映じ、其の景色いふべからざる一種の趣ある様を畫きたる圖なり。第八課川の景色につきて説明したるが如く、本圖も水靜なるが故に岸・家・火等の水に映じたる影は縦筋にて畫き、渡船の通りたる後に起れ

る波はこれを横に書きたり。

二。畫方

第十二圖冬枯の景色を畫くには、先づ地面・空・樹木・家等の占領する面積、道と小川との方向、並びに樹木の配置、幹と枝との畫方等を觀察せしめ、而して後極めて軽く鉛筆を使用して地平線を書き、道と小川との位置、及び樹木の配置を定め、近き方の樹木より書き始めて次第に遠方の樹木を書き、更に家・道・小川・地面・人物の順序に畫きて、後淡彩を施さしむべし。本圖は鉛筆畫として十分完全に仕上げたるものに、僅に淡彩を施して大體の色別をなすものなれば、彩色には決して濃色を用ふべからず、濃色を用ふる時は鉛筆にて畫きたる畫の調子を害するものなり。

彩色を施すには、先づ淡青色にて雲の部分を残して空と水とを塗り、黄勝の淡緑色に少量の岱赭色を加へたるものにて道及び小川を残して地面を塗り、淡青色に淡褐色を混じたるものにて樹木の幹を塗り、淡岱赭色にて道を塗り、最後に淡褐色にて幹枝及び水の最も暗き部分を彩色し、青色を人物に施さしむべし。

第十三圖夜景を畫くには、先づ空・對岸・水面に映じたる影・水面の廣さ、並びに對岸の道・家・月・渡船等の位置及び各部の濃淡を觀察せしめ、極めて軽く鉛筆を使用して地平線を引き、對岸と對岸の水面に映じたる影、並びに家・渡船等の大體の形狀を書き後に彩色せしむべし。彩色を施すには、青色と墨とを混じたるものに極めて少量

の赤色を入れて之を淡くし、これにて月・燈火、水に映じたる燈火の光、月の影等の部分を残して全面を平に塗り、更に又同色の稍濃きものにて森・家・岸、水面に映じたる岸の影、渡船等を畫き、尙同色の一層濃きものに褐色を加へて家・岸・渡船・人物等の濃き部分を塗り、最後に淡黄色と淡橙色との部分を彩色せしむべし。

三.注意

鉛筆にて畫きたる上に淡彩を施すには、毛筆に繪具を十分含ませて上方より軽く繪具を流し畫くべし。決して一箇所を度度撫づべからず、鉛筆の上を度度撫づるときは、鉛筆散りて穢るる虞あり。

第十二圖の樹木の枝の畫方につきて注意せしむべし。

第十二圖と第十三圖とは何れを畫かしむるも可なり。兒童の好むものを選択して畫かしむべし。

第十五課 人物（兒童用第十四圖）

臨畫と説明 二時間

要旨

人體各部の割合及び種種なる活動の姿勢を知らしめ、且其の畫方を練習す。

教授

一.觀察と説明

兒童用書第十四圖に示したる中央の人物は人體各部の割合を示したるものなり。人の體は頭の長さを標準として測

定するを普通とす。即ち體の高さは頭の幾倍と稱してこれを表す。日本人にて丈高きものは體の高さ頭の長さの七倍許にして低きものは五倍許なり。此の兩者は何れも日本人としては極めて稀にして五倍半乃至六倍の人最も多きにより、本圖は六倍の割合のものを示したり。其の諸部の割合は略、左の如し。

頭の二分の一の所に目あり、顎下より頭の長さを一つ取りたる所は胸骨の下端即ち水落に相當し、二つ目は臍に當り、四つ目は膝に相當す。

肩幅は兩肩の端と臍の邊とを結合する時、略正三角形をなす割合とす。

手の長さは、體に添へて垂直に垂れたる時、頭の長さの略三

倍に相當す。

右上方の水兵の姿勢は前向にして後方に傾きて綱を引き、左足に最も多く力を入れ、右足にては僅に體を倒れざる様支へたるなり。此の姿勢に於ては、常に頸と腰と左足先との三點を連ぬる線が略一直線をなし、右手の前腕と左手の拳と綱とは略一直線上にあり。

右下方の水兵の姿勢は前方に傾きて綱を引く所なり。此の姿勢にては兩脚を開きて足先に力を入れ、且頸・腹・足先の三點を連ぬる線は略一直線をなす。綱を握りたる腕は、後方に引きて體に接近す。

左上方の水兵は或重き物を下方に引下ぐる姿勢なり。此の姿勢は専ら體重にて物を引下ぐる有様なれば、足先に力の

入らざる様畫きたり。

左下方の水兵は、上體を稍前方に傾け、兩手を左右に開きて下方を望み、物に驚きたる時の姿勢を表したるなり。故に全身に多くの力を入れず、樂にしたる形を示したり。

二。畫方

中央の人物を畫くには、先づ中心線を書きて其の線上に各部の長さの割合を定め、次に肩幅を定め各部の輪廓を畫くべし。

三。注意

裸體人物は各部の割合及び輪廓を正確に畫き、水兵は兒童の好むものを任意に工夫して畫かしむべし。水兵は種種の動作の趣を表す爲に力の入所に注意して畫かしむべし。

第十六課 器物

考案畫 二時間

要旨

机・本箱等書齋用の器物を考案せしめて、工作圖の畫方練習をなす。

準備 考案せしむべき器物の参考となるべき圖、若しくは實物。

教授

一。説明

課題につきて其の品物の用途を説明し、且考案上必要なる要件を示すべし。例へば本箱なれば、和・本箱と定め、書物の大さは、長さ何寸、幅何寸のものを入るものとして考案すべし。

しといふが如し。

二. 畫方

先づ簡單なる看取圖を畫きて構造形狀寸法等を明かにし、後製圖せしむべし。

工作圖として製圖する時は、必ず先づ縱横の中心線を畫き、其の中心線上に高さ、幅との寸法を記し、器物の細部を表すべき縱の線を引く時は、横の中心線上に割出したる點によりて縱線の全部を畫き、横の線を引く時は、縱の中心線上に割出したる點によりて横線の全部を畫き、下畫を作りたる後、實線を入れて肝要なる部分の寸法を記入せしむべし。

三. 注意

實線は硬き鉛筆又は烏口にて正確に仕上げしむべし。

第十七課 棚の工作圖

寫生 四時間

要旨

棚を畫かしめて工作圖の畫方練習をなす。

準備 學校の備品中の書物棚、若しくは標本戸棚。

教授

一. 觀察と説明

書物棚若しくは標本戸棚のある場所に兒童を集めて製圖せしむべき棚を觀察せしめ、先づ製圖すべき面を選択せしめ、各部分の構造形狀を精査して後製圖すべき面の看取圖を畫かしむべし。次に或兒童をして製圖上必要なる部分の

寸法を實測せしめ、各兒童の看取圖に實測したる寸法を記入せしめ、更に其の寸法を製圖上必要なる縮圖の寸法に改算せしむべし。

二. 畫方

製圖は前課にて説明したる如く、先づ製圖上必要なる縱横の中心線を引き、其の中心線上に必要な寸法を割出し、縱横の平行線を書きて次第に細部分を仕上げ、實線を入れ、寸法線を書き寸法を記入せしむべし。

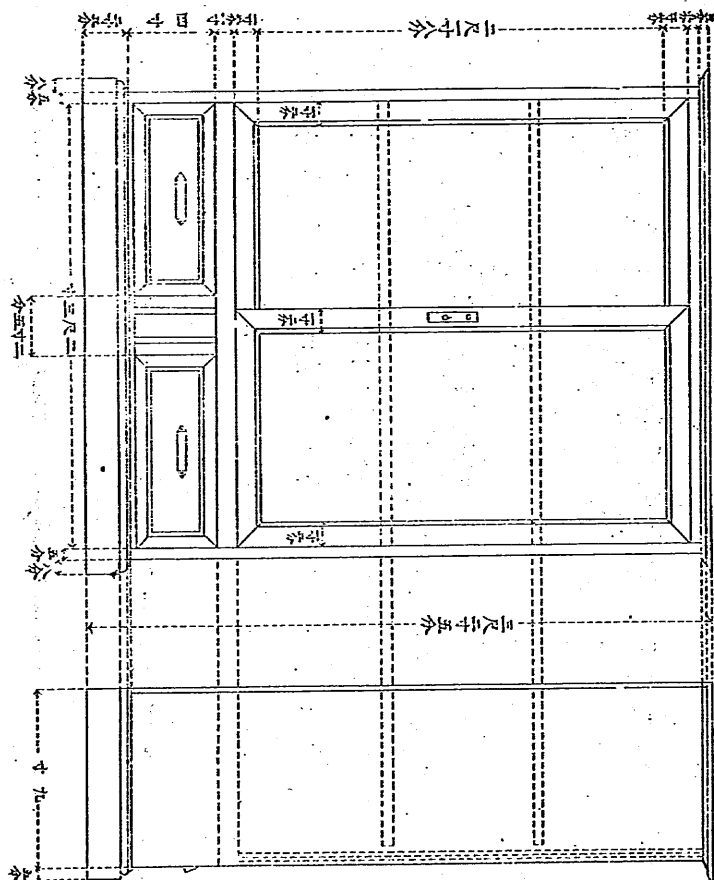
三. 注意

寸法は實尺の數を記入するものとす。

製圖すべき程度は凡そ本書挿圖の如きものとす。

複雑なる構造のものを製圖するに當り、表面に現れざる部

圖案の一例



分を悉く點線にて畫くは圖を混雜ならしむるのみにて比較的に利益少きものなれば、便宜省略して製圖することに注意せしむべし。

實線を入れたる後、用材を表す色にて彩色せしむべし。

本課は豫定時間を四時間と假定したれども、教材によりては二時間宛として二教材を課するも可なり。

課外 田舎家の工作圖

要旨

家屋の工作圖法の大要を知らしむ。

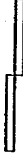
教授

一、説明

本圖は三尺平方を表す方眼を畫きたる紙面に田舎家の構造の大體を示したるものなり。

左上方の圖は正面圖にして其の下の圖は平面圖なり。右上方の圖は家の左側面を表したるものなり。建築製圖に於ける平面圖は器物の平面圖と異なり、正面圖と側面圖とに示したる鏈線の部分より壁及び柱を水平に切斷し、此の切斷面によりて畫くものとす。平面圖の中に點線を以て表したる形は、屋根伏平面圖を表したるものなり。

平面圖中に用ひたる  なる太き線は壁、 なる四

角形は柱、 は戸袋、 は一枚の開戸、 は

二枚、 は四枚の戸障子・襖の所在を表し、

數多の平行線を引ける部分は板間・縁側・敷臺を示し、夥多の細點を畫ける部分は土間を表したるものとす。

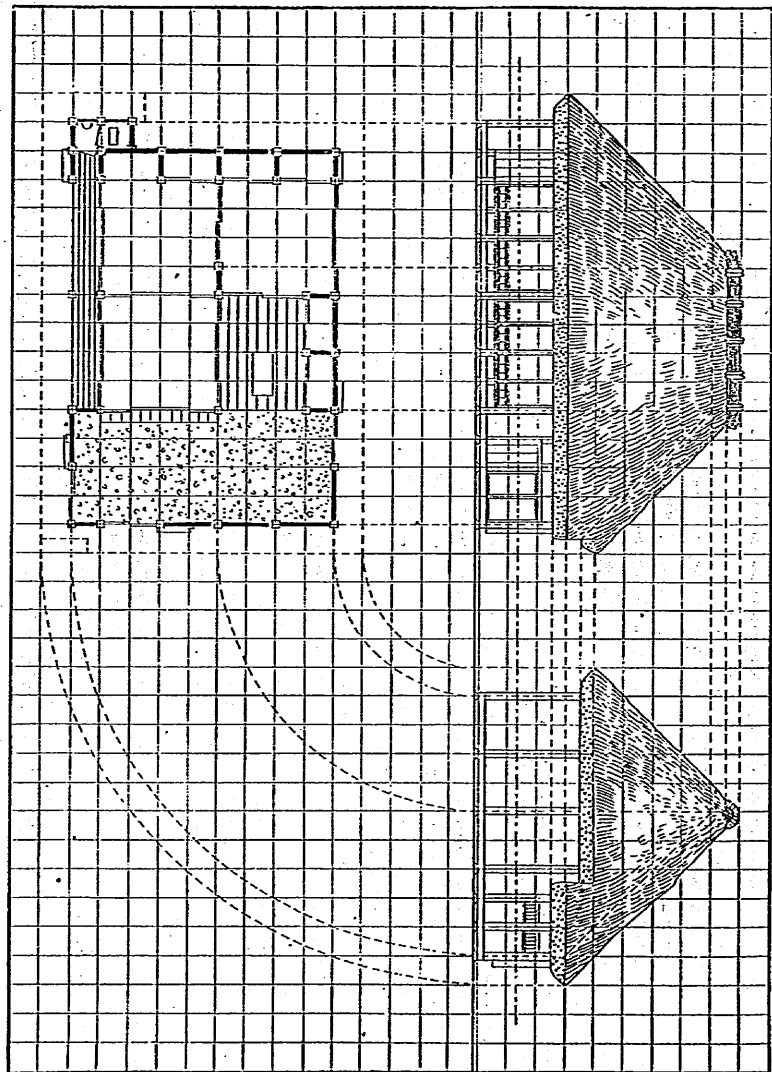
二. 畫方

本圖を畫くには先づ平面圖を畫き、次に正面圖と側面圖とを畫くべし。正面圖及び側面圖は表面に見えたる部分のみを畫くものとす。

三. 注意

本課は、成るべく兒童各自の住家の全部若しくは一部を實測して製圖せしむるか、或は學校の小使室・物置等成るべく簡單なる建物を實測して製圖せしむるを可とす。

實測の際は、先づ大體の平面・正面・側面の看取圖を作りて後、間口と奥行とを測量し、尙各室の窓・戸・障子・襖・板間・土間等を



測りて平面圖に記入し、次に垂直なる部分の製圖上必要な長さを測りて正面圖に記入せしむべし。
 垂直なる部分の長さは錘を附けたる緒を垂れ、之を基準として測るべし。

K141.71-3-26
 11317

高等小學新定畫帖第二學年教師用終

明治四十五年一月十四日印
 明治四十五年一月十八日發行
 明治四十五年一月二十日翻刻印刷
 明治四十五年二月六日翻刻發行

高等小學新定畫帖
 第二學年教師用
 定價金六錢

著作權所有 文部省 著作權者 發行所

東京市小石川區指ヶ谷町百廿六番地
 東京書籍株式會社

代表者 原 亮 一 郎

印刷者 東京市日本橋區通一丁目拾九番地
 大 倉 保 五 郎

印刷所 東京市京橋區新榮町五丁目七番地
 大 倉 印 刷 所

東京市日本橋區新右衛門町拾六番地

株式會社 國定教科書共同販賣所

發賣所

明治四十五年一月二十日
 文部省檢査濟



